

かさまのれきし

第 55 回



(写真：右) 笠間市立歴史民俗資料館（国登録有形文化財）
 (写真：左) 二重構造の蔵骨器（市指定文化財）

笠間市立歴史民俗資料館

（しど）
 宍戸小学校前交差点角に、笠間市立歴史民俗資料館があります。木造二階建て寄棟造りの洋風建築で、来年六月に開館四十周年を迎えます。

この建物は、昭和十二年（一九三七）一月に宍戸町役場庁舎として建てられました。敷地は、地元町民から寄付され、建設費もほとんどが寄付でまかなわれました。

戦後、昭和三十年（一九五五）一月に町村合併により友部町が誕生し、町内に新庁舎が完成するまでの三年余り、友部町役場庁舎として使われました。新庁舎完成後は、町の公民館に利用されたのち、広域消防の友部消防分署にもなりました。同分署が新庁舎に移ると、町は建物の有効な活用を図ろうと協議を重ねた結果、郷土の民俗及び歴史資料を保存展示する施設として役立てることにしました。当時、国の施策に「歴史民俗資料館の設置」があり、昭和五十六年（一九八一）に国から認可され、同年六月に友部町立歴史民俗資料館として開館しました。

その後、建物は平成十六年（二〇〇四）二月十七日付けで、国の登録有形文化財として登録され、貴重な国民的財産になりました。同十八年三月の市町合併により、現在は市の施設となっています。

玄関を入り目にするのは、小原の高寺古墳群の二号墳（市指定史跡）から出土した鉄製直刀七振、武人埴輪片などで、これら出土品も、市指定文化財になっています。南側の壁には、歴史年表や江戸時代前期の宍戸城下絵図が掲げられています。奥には、友部町立第一保育所改築時に出土した蔵骨器（外容器と小型の蔵骨器・市指定文化財）が展示されています。北側には、農具や養蚕に関する用具などが並び、説明が付けられています。二階に上がると、交通の移り変わりや商工業の発展が分かる展示があり、生活の中で使われたランプや蓄音機なども展示され、奥には宍戸焼のコーナーが設けられ、見たえのある資料館です。

（市史研究員 幾浦忠男）